

読み、考え、伝える探究型英語授業

—科学的題材を通して「思考力・判断力・表現力」を育む実践—

土屋 進一

はじめに

近年の英語教育においては、語彙や文法の定着に主眼を置いた知識伝達型の授業から脱却し、英語を用いて「読み、考え、伝える」力を育成する授業づくりが強く求められている。とりわけ学習指導要領が掲げる「思考力・判断力・表現力等」の育成においては、英語を単なる理解の対象として扱うのではなく、自らの思考を形成し、他者と共有するための言語として活用する視点が不可欠である。

本稿は、筆者が鳥取県教育委員会「新しい学びの創造事業『主体的・対話的で深い学び』」において、授業助言者および示範授業者として5年連続で招聘され、2025年11月7日に鳥取県立米子西高等学校で実施した公開授業の実践をまとめたものである。

本授業では、**Top-down reading** と **Bottom-up reading** を往還させながら、探究的に思考を深める英語授業の在り方を具体的に示した。

1. 題材と授業設計のねらい

(1) 題材の特徴

扱った題材は、東京書籍『Power On I』Lesson 6 *Patterns in Human Behavior* である。本課では、

- ・落とした財布が返却される確率
- ・クッキーの包装と消費量の関係
- ・空腹状態と購買行動

といった、日常生活に密接した心理学・行動科学の実験が紹介されている。抽象的な理論ではなく、生徒自身の経験と容易に結びつく内容である点が大きな特徴である。

(2) 授業のねらい

本授業のねらいは、次の三点に集約される。

1. 科学的事例を英語で読み取り、因果関係を整理する力を育成すること
2. **It is + 形容詞 + that** 節構文を、思考を言語化するための表現として理解し、運用できるようにすること
3. ペア・グループ活動を通して、他者の考えに触れながら思考を深め、英語で「伝え合う」経験を積むこと

単なる読解活動に終始するのではなく、「科学的な読み → 自分の思考の形成 → 英語での発信」という三段階の学びを、授業全体を通して一貫して設計した。

2. 探究的思考を引き出す4つのステップ

(1) 問いを立て、学びを開く

— Word Definition Game & Yes / No Quiz —

授業冒頭では、心理や行動に関わる語彙を用いた *Word Definition Game* を実施した。

生徒はジェスチャーを使わず、英語のみで単語を説明し、ペアの相手がそれを当てる。

例えば *cookie* という語に対し、

a food which is sweet and eaten as a snack

といった定義を即興で考え、伝える活動である

(図1)。

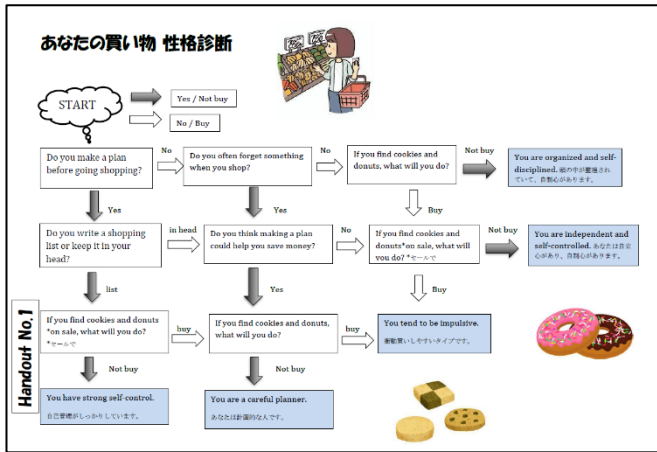
Word Definition Game ①



cookie
(クッキー)

(図1)

続く *Yes/No Quiz* (図2) では、「あなたは衝動買いしやすいか」「計画的な人か」といった問いに対し、ペアでやり取りをしながら選択を行う。



(図2)

この段階で生徒は、本文を読む前からすでに「自分ならどうするか」を考え始めている。

英語を使う必然性が自然に生まれ、教室全体に思考のスイッチが入る瞬間であった。

(2) 読むことを「再構築」に変える

— Sentence Ordering & Listening —

本文理解の中心活動として *Sentence Ordering Activity* を行った (図3)。

Part 3: Supermarket Shopping

Question) You tend to buy unnecessary food when you go to a supermarket. What should you do to stop this behavior?

Put the following sentences in the correct order.

Answer)

- In the study, the first group of people ate a muffin before shopping, while the second group ate nothing.
- One study found eating before shopping useful.
- So the next time you go shopping, eat something before you enter the supermarket to save money!
- The result showed that the first group bought less unnecessary food than the second group.
- That is, if you are hungry, you tend to buy more unnecessary food.

正しい順序
() → () → () → () → () → ()

(図3)

シャッフルされた英文を、実験の流れや因果関係を手がかりに並べ替える活動である。

この活動では、
 ・内容を理解していなければ並べ替えられない
 ・しかし、単語を逐一訳すだけでは正解にたどり着けない

という点が重要である。

生徒はペアやグループで議論しながら、

「なぜこの文が最初に来るのか」

「この *This was because...* は何を受けているのか」

といった論理の筋道を英語のまま捉えようとしていた。

その後、音声を用いて内容を再確認することで、読む・聞くという複数のインプットが統合され、英文の流れが一層明確になっていった (図4)。

Handout No.4

Lesson 6 Patterns in Human Behavior

Listening and Sentence Ordering

Listen and put the sentences in the correct order. Write the numbers (1-8) in the boxes.

- The rates for a baby, a puppy, a family, and an elderly couple were 88%, 53%, 48%, and 28%. ()
- Many people are interested in the human mind and behavior. ()
- The following three experiments show us interesting findings about human behavior. ()
- It seems that people are naturally attracted by babies and want to protect them like their parents.
- One of the four items (a baby, a puppy, a family, an elderly couple) was put into each wallet to find out its return percentage. ()

(図4)

英語を「解く対象」ではなく、「意味のある情報の流れ」として捉える経験となった。

(3) 英語に「感情」と「役割」を与える

— Role-play による対話的理解 —

第2校時では、本文内容を基にした *Role-play* を実施した。

教科書のモノローグを、探究の時間における教師と生徒の対話形式に再構成し、ALT と教師によるモデル会話を提示した後、生徒自身が役割を担って対話を行った。

実験の説明を「聞く側」から「語る側」に回ること、

This experiment shows how human behavior can be influenced by our feelings.

といった表現が、単なる英文ではなく**意味のある発話**として立ち上がっていく。

Role-play を重ねるにつれ、英語は「思考を整理するための言葉」から、「他者と共に考えるための言葉」へと質的に変化していった。

(4) 文法を「探究のツール」として使う

— Grammar in Context → Writing —

文法指導では、*It is + 形容詞 + that 節* を単なる構文としてではなく、**人間の行動を説明するための表現枠**として扱った。

まず、本文中の

It is natural that we want to understand the human mind and behavior.

を取り上げ、形式主語の役割を段階的に可視化する。

その上で、生徒自身が日常生活で見られる行動を題材に、

It is natural that people feel nervous when they take a test.

といった文を作成し、Google Sheets 上で共有した。

優れた表現を全体で取り上げることで、教室には「**英語で考え、英語で伝え合う共同体**」とも言える雰囲気が醸成されていった。

3. 「読み・考え・伝える」学びの深化

本授業で特に印象的だったのは、生徒が自らの経験と教材内容を結び付け、「なるほど」と腑に落ちる瞬間を何度も見せたことである。

心理学という科学的題材でありながら、内容が日常に直結しているため、英語で考えること自体が目的化せず、**思考の必然として英語が用いられていた**。

こうした姿は、英語が「知識の対象」から「思考の道具」へと転換した証左である。

探究的な学びは、この転換点から本格的に始まる。

4. おわりに

「読み、考え、伝える探究型英語授業」は、知識習得の枠を超えた英語教育の可能性を具体的に示すものである。

教師の役割は、英語を一方向的に教えることではなく、**英語を通して生徒が世界を読み解き、自分の言葉で表現する場を創る**ことにある。

米子西高校での本実践を通して、科学的題材と英語表現を融合させることで、生徒が主体的に思考し、互いに学び合う「深い学び」が確かに生まれることを実感した。

今後も学習指導要領の理念に立脚し、**情報を整理しながら考えを形成し、英語で伝え合う授業**の探究を続けていきたい。

謝辞

本授業を行うにあたり、鳥取県立米子西高等学校の英語科の先生方には、授業当日のサポートのみならず、授業実施に至るまでの打合せにおいても多大なるご協力をいただきました。また、参観して下さった鳥取県内の他の高等学校の先生方にも授業後の研究協議会にて貴重なご意見・ご感想を賜りました。

ここに心より感謝申し上げます。



参考文献

- 土屋進一.(2021). 「鳥取県『新しい学びの創造事業『主体的・対話的で深い学び』教員スキルアップ事業』の実践報告」. 英語実践事例シリーズ No.1.
- 土屋進一.(2022). 「ICT を活用し生徒が生き活きと活動できる英語授業」. 東京書籍ホームページ. 英語実践事例シリーズ No.10.
- 土屋進一.(2023). 「新しい学習指導要領に基づく論理・表現の文法指導」. 東京書籍ホームページ. 英語実践事例シリーズ No.22.
- 土屋進一.(2024). 「深い学びを促し自己表現につなげる物語文の授業」国際教育ナビホームページ
- 文部科学省.(2018). 高等学校学習指導要領(平成30年告示) 解説 外国語編 英語編. 文部科学省.

【お問い合わせ】

今回の示範授業で使用した ①指導案 ②パワーポイント資料 ③ワークシートの3点(いずれもPDF)をご希望の方は、下記のメールアドレスにお名前・ご勤務先・この記事に関するご意見・ご感想・ご質問などをお書きの上、送信してください。資料は1週間以内に必ずお送りいたします。また、講演・示範授業のお問い合わせもお待ちしております。

tsuchiya@bunri-c.ac.jp

